● お父さん 母とならんで 料理する ● なくそうよ 男女の差別 この世から ● おとうさん エプロンすがた かっこいい。 ● やることは みんなでやろう なにごとも ● おかあさん はたらくすがた かっ こいい ● お父さん 家事をこなして 母休む ● おかあさん いない時には 父料理 ● いい天気 そうじはりきる お父さん ● 家のこと 家族みんなで やるわがや ● 社会は 男と女で できあがる ● ぼくやるよ 男女で出来る 家事分担 ● 平等の なかは、幸せ つまってる。 ● おてつだい かぞくみんなで たすけあい ● たのしそうに はたらくパパも ママもすき ● なぜ差別 女だって やれるのに ● 男女共 ぜったいできる 家の事

「男の保育士って、何か変だな。やっぱり女の人でなきゃ。」

いやいやそんなことはありません。今や、保育士も看護師も男性が活躍中✧

どうして男子トイレには、ほとんどおむつ替えベッドがないの？

赤ちゃんは女性が連れて歩くもの？

いろんな役員の名前は男性(夫)だが、実際に行動(仕事)するのは女性(妻)が多いんじゃない？

これって名前貸し？

子どもへの声掛け、
「男の子でしょ、泣かないの！」
「女の子でしょ、おとなしくしなさい！」

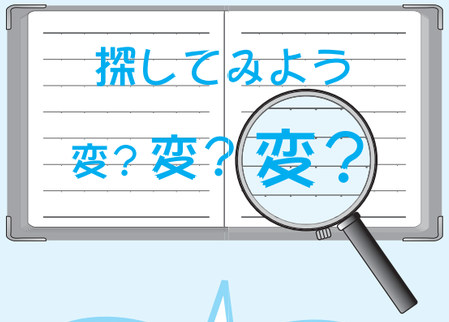
子どもは優しくたくましく！

芸能人の結婚発表会見で男性が言った言葉。
「男として彼女を守ってやりたい！」
女性はこう答えた。
「彼について行きます。」

あくまでもリードするのは男性ってこと？
２人の関係はいろいろだけど、女も男を守れるわ。

園児に正座を指示する場合、
「お母さん座りをしなさい。」

おかあさん＝正座という固定観念があるのでは？
さて、あなたのお母さんは？



軽自動車のコマーシャルに出演しているのはほとんど女性。

普通車、ワゴン車のコマーシャルではなぜか助手席なのよね。

食べ放題、飲み放題、男女で料金が違う。

あんなにたくさん飲み食いしている彼女。払うのは男の方が高いのはなぜ？

「一家の大黒柱であるあなたが決めなきゃ。」
「男が言わなきゃ、だめよ。」

困ったときだけ「男」にさせられても困る。

女の人は結婚すると『奥さん』と呼ばれることが多い(名前で呼ばれない)。

自分の名前、忘れそう･･･。

こんなことに外国人はビックリ！
サイズに差がある夫婦茶碗。
男子トイレを掃除する女性。

へぇ～、なるほどね！

紙おむつのコマーシャル、
男の子はアクティブブルー、
女の子はキューティーピンク。

どうして男がブルーで女がピンクなの？
機能性の違いで男女の区別があるのは分かるけど、色は関係ないでしょ？

外枠は、条例の制定と都市宣言の際、応募された男女共同参画に関する定型詩です。
今回は、小学生の作品の一部を紹介します。

この人に聞きたい！ ～インタビューコーナー～

プロフィル
若松　郁子　さん
(社)ひまわり会清水丘保育園園長
川内市保育連合会会長
(社)ひまわり会理事長
(医)大誠会常任理事
を歴任され、今日の男女共同参画の先駆けとなる女性の社会参画の促進や地位向上に大きく貢献されています。

Q. 男女共同参画についての印象は？

A. いい時代になりましたね。『女性＝価値の無いもの』という意識がなくなってきた。介護保険制度の導入は、無報酬で当然とされてきた『嫁の仕事』が、有償労働として評価されるようになったよい例だと思います。女性が強くなったというけど男性が弱くなったような気もしますね。かつての元気のいい男性のレベルに女性も押し上げられるのが理想なのかな。要は女もいろんな意味で「認めて欲しい」ということよね。

Q. 女に生まれてよかった？

A. よかったけど、男だったらまだよかった、と思うことも。男だったらもっと何でもさせてもらえたし、何でもできたような気がします。ただ、重い荷物を持ってもらったり、席を譲ってもらったりといういわゆる『女の特権』には時々甘えてもきたのよ、「あら、ありがとう」って。今は高齢者の特権になってるけどね(笑)。

Q. パートナーの故若松氏(医師)はどんな方？

A. 私は何でもハッキリものを言ってしまう方で、世の男性方はそういう女性を嫌う傾向が今もあるけれど、夫はそんな私を否定しませんでした。私が勉強する姿が好きだったみたい。家事は何も出来ない人だったけど、私が一生懸命何かしているとお茶を入れたりしてくれていました。

事業を拡げるに従って、夫の判断を仰ぐのでなく、自分で決断しなければならない機会が増えてきて一時すごく重荷になったんです。夫に不満を漏らしたら、『病院は毎日患者さんの生死を抱えている。きばれ！』と一言。夫に鍛えられたから今一人になってもやっていけるのだと思います。『女は子育てと台所』ぐらいに思われている家庭だったらできなかったでしょうけどね。

Q. ４人のお子さんを育てられ、その全員が医師としてご活躍中ですが・・・。

A. 私は子どもを４人産んだだけ。おっぱいをあげただけ。面倒を見てくれる人がほかにいたからこそ仕事ができました。それがあったから、保育園でもよそに先駆けてゼロ歳児保育をスタートさせたの。産んで１・２年は母親がみることが標準だった時代。でも赤ちゃんのうちから外に出すと、親も子も客観的に育つ！と言い切ってやってきました(笑)。

娘３人を女子医大に進学させたのは正解だったと思います。共学の医大では、例えば解剖実習の際、男子が解剖する後ろで女子は見ているだけ。女子大だとその点自分で何でもせざるを得ないですものね。

Q. 子育てについて一言。

A. 子どもはとにかく学校に上がるくらいまでは親が一生懸命「看る」(＝ケアする)ことが大事。そして子どもに関することを夫婦で同じようによく知ること。両親のどちらかだけが分かっているのでなく、普段からお互いに情報のやり取りをして子どものことをよく知るようにする。

うちの保育園は、初めから『母の会』でなくて『父母会』。お父さんが出てくることは〝珍しい〟でなく、〝当たり前〟のことなのよね。

『男女共同参画』という言葉もない時代、女性が自分の意見を相手に伝えることすらはばかられた時代に、主張することを恐れず自分らしさを貫いてきた郁子さん。女性が活躍できるかどうかは家庭のあり方にも大きく左右されそうですね。「まだまだやりたいことはたくさん。いつまで生きられるか分からないからこそ夢を持てる！」

自分らしさにこだわって生きるってやっぱり素敵だなと感じさせられたインタビューでした。

● かっこいいな りょうりもできる おとうさん ● これからは わたしらしさを たいせつに ● だんしじょし みんなさんづけ いいクラス ● きょうどうは だんじょともに いいきぶん ● こそだてを ちちもてつだう よのなかへ ● 青いカバン 私も好きな 色なのよ

● だれでもね せいべつわけず がんばろう ● 男子女子 この世のすべて 平等だ ● だんじょでね ちから合わせれば うまくいく ● 母仕事 父かじをする わがやかな ●「らしさ」とは 個人につかって いみがある ● しょうらいの わたしのゆめは パイロット ● いもうとの おむつをかえる お父さん ● 男女はね かんけいないよ 友だちだ ● 手をつなぐ 父母のすがた うれしくて ●